

科目名	国際情報論特講	担当者	マルモリ 丸 森 カズヒロ 一 寛	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>これから国際情報分野を学び、国際情報の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等理解するとともに、研究基盤となる知識・教養の涵養を目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。【A-4:3】 II. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。【A-3:3】 III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。【A-1:3】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 国際情報分野で研究および論文を作成するうえで「常識」とされる知識を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 ・国際情報を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、①研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、②自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、③研究倫理について、研究を進める上でやってはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。 ・自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 スクーリングで15回の講義に出席するほか、1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりで20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材(OER)を基本教材の補助として視聴する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 ・指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成しmanaba folioに提出する。提出されたレポートについて担当者が検討すべき事項を指摘して修正版の提出を求める。これらを繰り返して合格水準に達するレポートを完成させる。この過程において疑問が生じた場合には、Manaba-Folioを通して適宜担当者に質疑をする。 ・7月中旬に3日間実施されるスクーリング(集中面接授業)に全日程出席することが、単位取得の要件となる。また、レポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までにmanaba folioに提出する。なお、補講を実施する場合がある。</p> <p>【学修時間】 在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</p>		
スケジュール	<p>この講義は、大学院の初年度教育に関する内容なので、初年度に履修すること。 <通信授業(在宅学習) 2単位：基本教材1> 1) 基本教材1.のレポート課題1 初稿〆切 2019年6月末日 → 最終稿〆切 2019年9月20日 2) 基本教材1.のレポート課題2 初稿〆切 2019年11月末日 → 最終稿〆切 2020年1月15日 <スクーリング 2単位> 2019年7月13日～15日 (9月中に補講を実施する場合がある。) 1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー(担当：専攻主任) ①研究・論文作成の概論 ②研究、及び論文作成に求められるもの ③論証あるいは検証の方法 ④研究倫理1 ⑤研究倫理2 ⑥先行研究のレビューとその利用方法 ⑦研究及び論文の進め方 2) 国際情報専攻分野における様々な課題(担当：各科目担当教員) ⑧国際(関係)・政治分野1 ⑨国際(関係)・政治分野2 ⑩国際(関係)・政治分野3 ⑪国際(関係)・政治分野4 ⑫経営・経済分野1 ⑬経営・経済分野2 ⑭経営・経済分野3 ⑮経営・経済分野4 1) スクーリング・レポート課題1：スクーリング1週間後(初稿のみ) 2) スクーリング・レポート課題2：スクーリング終了の1か月後(初稿のみ)</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学習)	50%	レポート(論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示)：35% 観察記録(取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明)：15%
	スクーリング	50%	レポート(論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示)：35% 観察記録(取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明)：15%

履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な学習のため、履修届を提出したら担当教員 (marumori.kazuhiro@nihon-u.ac.jp) に必ずメールにて連絡すること。 ・学修およびレポート作成についての注意事項については、全てManaba Folioの「国際情報論特講」の掲示板で告知するので、必ず定期的にチェックすること。 ・レポートを作成する際には、事実と意見を峻別すること。また、意見のうち他者の意見と自分の意見を峻別し、前者については引用部分と出典を明らかにし、後者についてはその根拠を論理的に説明すること。
---------	--

【レポート課題】

基本教材 1 (通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 早稲田大学ビジネススクール著 教材名： 『ビジネスマンの基礎知識としてのMBA入門』 (日経BP社、2015) ISBN978-4-8222-4900-7 1,800円+税</p> <p>(2) 著者名： 日本経済新聞社 編 教材名： 『仕事に役立つ経営学』 (日本経済新聞出版社、2014) ISBN978-4-532-11314-8 860円+税</p> <p>『ビジネスマンの基礎知識としてのMBA入門』は、ビジネススクールの主要科目のエッセンスを集約したもので、ビジネスの原理原則を体系的に学ぶための入門書である。ビジネスプランを描くための「戦略思考の基礎」と、その実行方法を解説した「マネジメントの基礎」から構成され、考えることと実行することの基本をバランスよく学習できるように工夫されている。</p> <p>『仕事に役立つ経営学』は、経営学の最前線で活躍する重鎮・気鋭の日本人研究者11名が、今注目を集めるホットなテーマについて執筆したものである。企業の実例が多く織り込まれており、実務に役立つ内容となっている。</p> <p>いずれも、章毎により詳しく学ぶための本を紹介しており、各人の興味に応じてさらに深く学べるように工夫されている。</p>
参考図書	「基本教材(1)収録の「もっと詳しく学ぶための本」および(2)収録の「ブックガイド」に記載されている本
履修上のポイント	基本教材は、いずれも経営学の基礎知識を持ち合わせていなくとも読み進められる記述となっているが、ベーシックなフレームワークや理論を出発点としながら最新の理論とケースを学ぶ内容となっている。字面を追うだけでなく、その背景にあるロジックを常に考えながら読み進めてほしい。
レポート課題1	①経営経済学、②経営戦略、③マーケティングの各分野について、それぞれ指定された内容(履修登録者に別途連絡)のレポートをまとめて下さい。
レポート課題2	④組織論とリーダーシップ、⑤アカウンティング、⑥ファイナンスの各分野において、それぞれ指定された内容(履修登録者に別途連絡)のレポートをまとめて下さい。

基本教材 2 (スクーリング)	
教材の概要	著者名： 教材名： スクーリングにおいて提示された推薦図書
参考図書	「基本教材(1)収録の「もっと詳しく学ぶための本」および(2)収録の「ブックガイド」に記載されている本
履修上のポイント	スクーリング前半の「大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」において、①研究及び論文の最低条件を理解する、②研究倫理を含む研究を進めるための基本的なスキルを身につける、③研究及び論文作成のモチベーションを高める、という3つの目的を達成して修士論文を作成するために必要な研究リテラシーを涵養するとともに、後半の「各専攻分野における様々な問題」において、国際情報専攻分野の研究基盤となる知識・教養の涵養に努めること。
レポート課題1	スクーリングの概要を要約し、それについての意見をまとめてください。(1,000字から1,500字)
レポート課題2	各分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、 研究計画書 (3,000字から4,000字)をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出してください。